令和4年度 学校経営の改革方針

学 校 名	津 市 立 雲 出 小 学 校	校 長 名	川 口 達 也
児童・生徒数	156名	学級数	9学級
		教職員数	17名

1 めざす学校像

- 子どもたちが未来を切り開く力を培い、意欲をもって学習や活動に参加する学校
- 子どもも保護者も教職員も互いに認め合い「自分が好き・なかまが好き・雲出が好き」と言える学校
- 子ども、保護者、地域から信頼される学校

2 現状と課題

- 基礎的な学力が定着しない児童や、発展的な課題に取り組む力が弱い児童がいる。
- 自分に自信がもてず、意欲的に活動できない児童が少なからずいる。
- 全職員の共通認識に基づいた教科指導や人権教育の充実をさらに図り、実践を創り上げる必要がある
- 家庭・地域との連携や地域学習の意義を確認し、計画的及び系統的に取り組を進めていく必要がある。

3 重点目標

- (1) 日々の「わからなさや間違い」を大切に協働的な学びを追求する授業改革
- (2) 全ての子どもが確かな学力の定着・向上（ICTの活用）
- (3) 全ての子ども、教職員が安心して学べる環境づくり

4 具体的な行動計画

- (1) 協働的な学びを追求する授業改革
 - ①聴き合える集団を学級づくりの柱にする
 - ②「わからなさ・間違い」を大切にする価値観に切り替える校内研修の充実を図る
 - ③ペア学習、グループ学習を積極的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還による児童が主体となる授業改善に取り組む
 - ④子どもが興味をもって夢中になる課題（共有とジャンプの課題）を研究する
 - (2) 全ての子どもが確かな学力の定着・向上
 - ①学習における本校の強みと弱みを的確に把握・分析し、朝の学習、家庭学習の内容を定期的に見直す。
 - ②学年の実態に応じた少人数教育・TT指導・個別指導を実施する
 - (3) 全ての子ども、教職員が安心して学べる環境づくり
 - ①日常生活の様々な場面で、意図的に人とのかかわりについて考えさせ、「差別を許さない仲間づくり」「自他を大切にできる人権教育」を推進し、互いを尊重し合う関係を醸成し、自尊感情・他者理解力の育成に努める。
(児童満足度90%)
 - ②一人一人の特性に応じた指導と支援のあり方を検討し実践するとともに、共生の視点を大切に特別支援教育を推進する。
 - ③部落問題・障がい者問題・在日外国人問題・性の多様性問題等について、当事者の思いに触れる学習・研修会を通して人権意識を高める。
 - ④全職員で支援が必要な児童や視点児童を軸にすえた学級経営・授業実践を行い、校内研修・職員会議等で課題や手立てを共有する。
 - ⑤学校の教育実践の積極的な発信（家庭訪問・個人懇談会・授業参観・学校・学級通信・ホームページ等）と外部評価の活用による開かれた学校づくりを推進する。(保護者満足度90%)
 - ⑥組織力を高め、校務分掌を円滑かつ有効に機能させ、職員の精神的、身体的疲労を軽減し、職場の健康管理や環境改善に取り組み、職員の過重労働の縮減（前年度比10%減と超過勤務で1か月45時間、年間360時間を超えない）に努める。
(定時退校日(My)の実施割合80%以上) (一人あたり休暇取得日数を前年度比2日増の取得)
(放課後に開催される会議は1時間以内、17時までに終了する実施割合80%)
- ※日常的な家庭訪問等によって子どもたちの生活背景を知り、子どもや保護者の思いに寄り添い、ともに考える教育活動を推進する。